

PERCEPTOL, ID-11 AND MICROPHEN FILM DEVELOPERS

リールタンク、深タンク、皿現像および補充なしのロータリープロセッサーで少量の黑白フィルムを処理するための粉剤タイプの現像剤

ILFORD PERCEPTOL、ID-11、および MICROPHEN 粉剤タイプの現像剤は、すべてのフォーマットで一般的な黑白フィルムの性能を最大限に引き出すように処方されています。

これらの現像剤は、ILFORD および他社の黑白フィルムを現像して、各フィルムの感度と品質を最適化し、長期にわたり品質の一貫性を保つことが可能です。

PERCEPTOL は、超微粒子で優れた調子再現性をもったフィルム現像剤です。粒状性を重視し、低感度設定で撮影したフィルムの現像に最適な処方となっています。また高解像度レンズの能力を最大限引き出すことができます。

これは、ILFORD の中庸感度および低感度フィルムである DELTA100 PROFESSIONAL、FP4 Plus、および PAN F Plus が持つ優れた粒状性を生成、ILFORD 高感度フィルムである

DELTA 400 PROFESSIONAL、HP5 Plus、および DELTA 3200 PROFESSIONAL でも標準現像剤と比較して、はるかに細かい粒子を生成することができます。

PERCEPTOL は、どのようなレンズ/フィルムの組み合わせでも優れた結果を生み出すため、粒状性と解像度が重要な場合に理想的な現像剤です。PERCEPTOL で現像されたネガは、一般的な微粒子現像剤を使用して作成されたネガよりもシャープで高品質のプリントを作成することができます。

ILFORD ID-11 は、乳剤感度を損なうことなく微粒子ネガが作成できる一般的な黑白フィルム用微粒子フィルム現像剤です。

ID-11 デベロッパーは、一般写真、テクニカル写真分野において標準現像剤として国際的に認められています。

ID-11 は低感度から高感度までの幅広い黑白フィルムで良好な結果が得られる微粒子現像剤です。

ID-11 は、拡大率の高いプリント作成にも適した粒状性、シャープネス、階調のバランスがとれたネガを作成することができます。

ILFORD MICROPHEN は、増感現像に対応した微粒子フィルム現像剤です。

ほとんどのフィルムで 0.5 段の増感処理は可能ですが、HP5 Plus、Delta 400 Professional、Delta 3200 Professional などの高感度フィルムではそれ以上の増感が可能になります。一般的な増感現像剤で、増感現像すると粒子が粗くなる欠点があります。MICROPHEN は、この欠点を克服するために現像液のアルカリ度が低め、粒子が粗くなるのを抑制しています。MICROPHEN は増感現像を行っても粒状性を損なわない優れたフィルム現像剤です。

MICROPHEN は、HP5 Plus、Delta 400 Professional、Delta 3200 Professional、SFX200 などの感度の高いフィルムの増感現像のために現像時間を長くするのに適しています。

調合手順

注:写真用処理薬品は、正しく使用すれば危険性はありません。すべての写真用処理薬品を取り扱い、混合するときは、手袋、保護メガネ、エプロンまたはオーバーオールを着用することをお勧めします。パッケージに記載されている健康と安全に関する推奨事項に必ず従ってください。ILFORD処理薬品の安全な取り扱い、廃棄、輸送に関する詳細が記載された製品安全データシートは、www.ilford.co.jp から入手できます。

原液の準備

PERCEPTOL、ID-11、MICROPHENのパッケージには、A剤とB剤の2つの粉剤が入っており、すべて同じ方法で原液を作れるようになっています。現像液原液は必ずパッケージに記載されている全量を作る必要があり、各粉末を小分けして現像液原液を作ろうとしないでください。

現像液原液を準備するには、最初に作成する容量の約4分の3の量の40°C/104°Fの温水を用意し、A剤（小さい方のバッグ）を入れて溶かします。A剤がほとんど溶けるまでかき混ぜ、B剤（大きい方の袋）を少しずつ加えながらかき混ぜます。粉が溶けなくなるまでかき混ぜ続けます。

注: 数粒の粉末が溶けずに残るのは正常です。水を加えて最終容量にし、かき混ぜます。20°C/68°F程度の室温まで冷やせば、現像液はすぐに使用できます。

水道水には空気が多く含まれているため、必要な水を採用したあと数分間放置してから使用液の調製に使用することをお勧めします。

使用液の準備

上記で作成した現像液は、原液として使用するか、「ワンショット」処理用として1+1または1+3に水で希釈して使用することができます。1+1および1+3で希釈するのは、現像処理直前に原液から調製し、使用前に十分に攪拌してください。

pHと比重

次の表は、PERCEPTOL、ID-11、および MICROPHEN現像液のpH と比重 (SG) を示しています。

これらの数値は、管理された実験室条件下で得られたものであり、ユーザーご自身の環境での測定値とはわずかに異なる場合があります。

ユーザーは、後で比較するために、常に正確に調合した直後の現像液を測定するようにしてください。理想的には、溶液のpHを測定するためにpHメーターを使用する必要がありますが、pHメーターがない場合は、pH測定ストリップで測定することができます。pH測定ストリップはさまざまなpH範囲を測定できるものがありますが、pH7からpH10の範囲をカバーするもので十分です。比重 (SG)は比重計を使用して測定でき、1.000から1.200の範囲をカバーするものを使用してください。

現像液	希釈率	pH	比重(20°C)
PERCEPTOL	原液	7.68–7.82	1.110
	1+1		1.058
	1+3		1.028
ID-11	原液	8.60–8.70	1.090
	1+1		1.047
	1+3		1.022
MICROPHEN	原液	8.67–8.93	1.095
	1+1		1.050
	1+3		1.024

リールタンクによるマニュアル現像処理

PERCEPTOL、ID-11、および MICROPHEN はすべて、原液または希釈液1+1および1+3を使用してリールタンクでフィルムを現像処理することができます。

推奨現像温度は20°C (68°F) ですが、20–24°C (68–75°F)の温度範囲で使用することができます。ただし高い温度を使用する場合は、推奨される現像時間を短縮する必要があります。一部のフィルムでは現像時間が非常に短いため、処理が不均一になる可能性があります。その場合は希釈率と温度の選択には注意が必要です。

処理を開始する前に、タンクのサイズと処理するフィルムの数に応じて、必要なすべての処理薬品の必要量を準備します。処理液量は、使用するすべてのリールを処理するのに十分な量を準備してください。すべての処理液の温度を確認し、推奨温度の ±1°C (2°F) になるように調整します。

現像液をリールタンクに入れた後、作業台でタンクをしっかりと叩いて、リール内に閉じ込められている可能性のある気泡を取り除きます。

ILFORD薬品を使用したリールタンク処理には、次の攪拌方法が推奨されます。最初の10秒間にタンクを上下に往復4回反転させ、さらに1分ごとに最初の10秒間にタンクを上下に往復4回反転させます。攪拌した最後に、タンクを作業台でしっかりと叩き、リール内に閉じ込められている可能性のある気泡を取り除きます。この攪拌方法は、定着液でも同様に行います。

推奨現像時間の終了10秒前に現像液を排出し、すぐに次の処理液でタンクを満たしてください。

シートフィルムの皿現像処理

PERCEPTOL、ID-11、および MICROPHENの原液はすべて、推奨温度20°C (68°F) $\pm 1^\circ\text{C}$ (2°F) でシートフィルムを皿現像することができます。現像時間が短くなりすぎて処理が不均一になる可能性があるため、より高い温度での現像処理はお勧めしません。

処理を始める前に、使用する処理バットのサイズと処理するフィルムの枚数に応じて、必要なすべての処理薬品の必要量を準備します。処理液量は、処理中にシートフィルムを完全に覆うのに十分な量でなければなりません。すべての処理液の推奨処理温度を確認し、 $\pm 1^\circ\text{C}$ (2°F) になるように調整します。

皿現像処理で連続攪拌を行う場合は、フィルムを現像液に完全に浸し、こぼれないように気をつけながら処理バットを左右にそとと揺らします。この攪拌方法は、すべての処理工程で使用します。連続攪拌すると、推奨現像時間を約15%短縮することができます。

推奨現像時間の終了10秒前に処理バットからフィルムを取り出し、現像液をフィルムの表面からきって停止液に入れます。

深タンク処理

PERCEPTOL、ID-11、および MICROPHENの原液は、深いタンク現像処理に使用できます。推奨現像温度は20°C (68°F) ですが、20–24°C (68–75°F) の温度範囲で使用することができます。ただし高い温度を使用する場合は、推奨される現像時間を短縮する必要があります。一部のフィルムでは現像時間が非常に短いため、処理が不均一になる可能性があります。その場合は希釈率と温度の選択には注意が必要です。

すべての処理液の推奨処理温度を確認し、 $\pm 1^\circ\text{C}$ (2°F) になるように調整します。

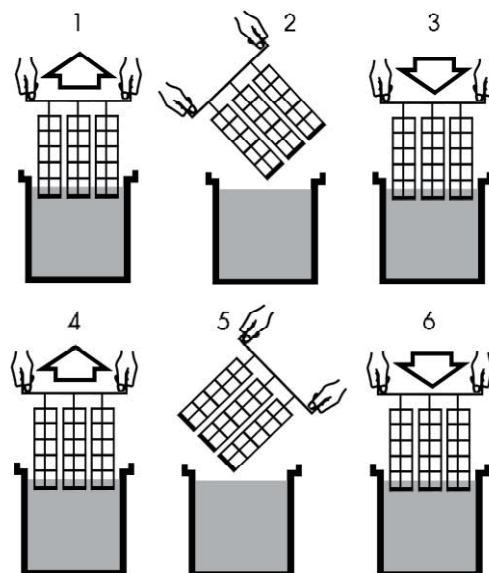
深タンクでの攪拌方法

PERCEPTOL、ID-11、および MICROPHENを深いタンクで使用する場合は、次のマニュアル攪拌方法をお勧めします。処理ラックをタンクに下ろし、ラックの端でタンクを軽くたたいて気泡を取り除きます。ラックを処理液から持ち上げて、すぐに戻します。ラックの端でタンクをもう一度たたきます。

さらに1分ごとに、下図のように処理液からラックを持ち上げ、片側に傾けてからタンクに戻します。傾斜の方向を交互に変えながら、これをさらに2回繰り返します。3回持ち上げた後、ラックの端でタンクをたたきます。

この攪拌方法は、他の処理工程でも同様に行います。

各処理工程の推奨時間が終了する10秒前にラックを処理液から取り出し、残りの時間で薬品をきってください。



別の攪拌方法として、ガス圧による攪拌を利用することもできます。現像液のガス圧攪拌には窒素ガスを使用する必要があります。

停止液、定着液、および水洗には空気圧を使用することができます。空気圧を使用して現像液の攪拌は行わないでください。ガス圧による攪拌を行う場合は、機器メーカーの説明に従ってください。説明が見つからない場合は、初期設定として、ガス圧を0.3～0.9bar (5～14psi) に設定し、攪拌サイクルを2秒間弁を開き、8秒間弁を閉じるように設定してください。

または、10秒間隔に1秒間、ガスの弁を開く攪拌方法がありますが現像時間を調整する必要があります。

ガス圧装置によっては処理ムラが発生する場合がありますので、ガス攪拌の際はご注意ください。処理薬品の攪拌に影響があるので、フィルムを密着させてタンクに入れしないでください。

他の処理工程を空気圧で攪拌する場合の方法も現像液と同様です。

水滴斑防止剤を含んだリンス液のガス攪拌は過度の発泡を招くのでお勧めしません。

自動現像機

ロータリープロセッサ

ロータリープロセッサは、リールタンクによるマニュアル現像処理と非常に似た処理条件で現像することができます。事前に設定して連続攪拌を行うことで処理薬品を少量に抑えることができます。PERCEPTOL、ID-11、および MICROPHENはすべて、20°C (68°F) で原液または1+1 および 1+3の希釈液でロータリープロセッサによるフィルム現像を行うことができます。

ロータリープロセッサの処理時間の設定は、プロセッサの製造元が提供する説明書に従ってください。ただし、現像ムラの発生につながるため、一般的にプレリンスは推奨されません。

プレリンスを行わない場合、連続攪拌により現像時間は、約15%短縮する必要があります。

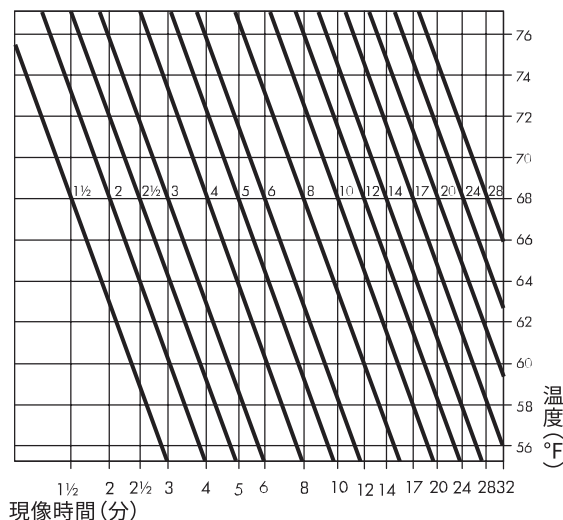
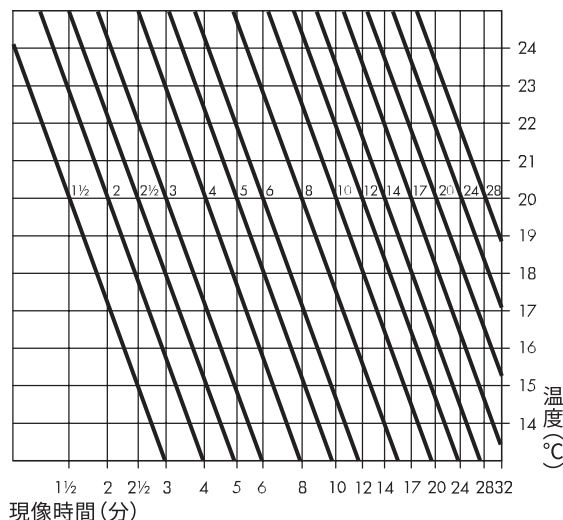
現像時間

表に示している現像時間は、一般的な黑白フィルムを現像する場合のPERCEPTOL、ID-11、および MICROPHEN の標準現像時間を示しています。

表に示す現像時間は、適切なEI設定で露光されたフィルムで、0.62G-bar前後の標準的なコントラストのネガを作成するための現像時間です。ただし、これらは目安であり、個々の処理システム、作業慣行、および好みに合わせて調整する必要があります。個々の要件に合わせて、より高いまたはより低いコントラストのネガが必要な場合は、好みのコントラストレベルが得られるまで、現像時間を調整してください。

PERCEPTOL、ID-11、MICROPHENは20～24°C (68～75°F)の温度範囲で使用できます。他の温度で現像処理する場合は、温度が1°C (2°F)下がるごとに指定された現像時間を10%ずつ増やし、温度が1°C (2°F)上がるごとに指定された現像時間を10%ずつ減らします。以下の時間と温度のグラフを参考にしてください。

たとえば、20°C/68°Fで6分間の現像時間が推奨される場合、23°C/73°Fでの現像時間は4.5分、16°C/61°Fでの現像時間は9分になります。



ILFORD フィルム

20°C (68°F)
時間(分)

現像液		PERCEPTOL			ID-11			MICROPHEN		
希釈率		原液	1+1	1+3	原液	1+1	1+3	原液	1+1	1+3
露光設定										
DELTA 100 PROFESSIONAL	EI 50/18	12	13	16	7	10	15	—	—	—
	EI 100/21	15	17	22	8.30	11	20	6.30	10	14
	EI 200/24	—	—	—	10.30	13	—	8	14	20
DELTA 400 PROFESSIONAL	EI 200/24	10	12.30	18.30	7	10	18	5	8.30	16
	EI 250/25	12	—	—	—	—	—	—	—	—
	EI 320/26	—	15.30	—	—	—	—	—	—	—
	EI 400/27	—	—	—	9.30	14	—	6.30	11.30	—
	EI 500/28	—	—	—	—	—	—	7.30	13.30	—
	EI 800/30	—	—	—	11.30	17.30	—	8.30	15.30	—
	EI 1600/33	—	—	—	14.30	—	—	10.30	19	—
	EI 3200/36	—	—	—	19	—	—	14	—	—
DELTA 3200 PROFESSIONAL	EI 400/27	11	—	—	7	—	—	6	—	—
	EI 800/30	13	—	—	8	—	—	7	—	—
	EI 1600/33	15	—	—	9.30	—	—	8	—	—
	EI 3200/36	18	—	—	10.30	—	—	9	—	—
	EI 6400/39	—	—	—	13	—	—	12	—	—
	EI 12500/42	—	—	—	17	—	—	16.30	—	—
	EI 25000/45	—	—	—	—	—	—	17.30	—	—
PANF Plus	EI 25/15	9	10.30	15	4.30	6	12.30	—	—	—
	EI 50/18	14	15	17	6.30	8.30	15	4.30	6	11
	EI 64/19	—	—	—	—	—	—	6	9	14.30
FP4 Plus	EI 50/18	9	13	17	6.30	8	17	—	—	—
	EI 125/22	12	15	21	8.30	11	20	8	10	14
	EI 200/24	—	—	—	10	15	—	9	14	18
HP5 Plus	EI 250/25	13	—	—	—	—	—	—	—	—
	EI 320/26	—	18	25	—	—	—	—	—	—
	EI 400/27	—	—	—	7.30	13	20	6.30	12	23
	EI 800/30	—	—	—	10.30	16.30	—	8	15	—
	EI 1600/33	—	—	—	14	—	—	11	—	—
	EI 3200/36	—	—	—	—	—	—	16	—	—
SFX 200	EI 200/24	14.30	20	—	10	17	—	8.30	15.30	—
	EI 400/27	—	—	—	14	—	—	10.30	19	—
	EI 800/30	—	—	—	18	—	—	14.30	—	—
ORTHO PLUS Pictorial Contrast	EI 80/20 Daylight • EI 40/17 Tungsten									
	Normal	—	—	—	8	10.30	16	9	11.30	13.30
	High	—	—	—	10	13	20	12	14.30	17
Kentmere PAN 100	EI 50/18	9.30	13.30	—	7	8.30	17.30	—	—	—
	EI 100/21	12.30	15.30	—	9	11.30	21	8.30	10.30	14.30
	EI 200/24	—	—	—	11	17.30	—	9	14	—
Kentmere PAN 200	EI 100/21	10	14	—	5	6	12.30	—	—	—
	EI 200/24	13	16	—	7.30	8.45	—	5.30	7	9.45
	EI 400/27	—	—	—	—	—	—	8	10	—
Kentmere PAN 400	EI 320/26	—	23	—	—	—	—	—	—	—
	EI 400/27	—	—	—	9.30	16.30	25.30	8	15	—
	EI 800/30	—	—	—	13	20.30	—	10	19	—

他社フィルム

20°C (68°F)
時間(分)

現像液		PERCEPTOL			ID-11			MICROPHEN		
希釈率		原液	1+1	1+3	原液	1+1	1+3	原液	1+1	1+3
露光設定										
Kodak Tmax 100	EI 100/21	12	13	19	8	11	16	8	11	16
	EI 200/24	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Kodak Tmax 400	EI 400/27	11	12	17	7	10	15	7	10	15
	EI 800/30	—	—	—	9.30	—	—	—	—	—
	EI 1600/33	—	—	—	12	—	—	—	—	—
	EI 3200/36	—	—	—	15	—	—	—	—	—
	EI 6400/39	—	—	—	18	—	—	—	—	—
Kodak Tmax 3200	EI 400/27	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	EI 800/30	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	EI 1600/33	—	—	—	11	—	—	9	—	—
	EI 3200/36	—	—	—	14	—	—	12	—	—
	EI 6400/39	—	—	—	—	—	—	14	—	—
Kodak Plus X	EI 64/19	8	8.30	12	—	—	—	—	—	—
	EI 125/22	—	—	—	7	8	13	—	—	—
	EI 200/24	—	—	—	—	—	—	6	8.30	13.30
Kodak Tri X	EI 200/24	10	12	15	—	—	—	—	—	—
	EI 400/27	—	—	—	7.30	11	19	—	—	—
	EI 500/28	—	—	—	—	—	—	6	11	22
	EI 800/30	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	EI 1600/33	—	—	—	12	—	—	—	—	—
Agfa APX 100	EI 50/18	9	—	—	—	—	—	—	—	—
	EI 100/21	—	—	—	9	13.30	—	—	—	—
	EI 200/24	—	—	—	—	—	—	9	—	—
Agfa APX 400	EI 320/26	14	17	24	—	—	—	—	—	—
	EI 400/27	—	—	—	10	14.30	25	10.30	19	27
Fuji 100 Acros	EI 100/21	12.30	—	—	6.45	—	—	—	—	—
Fuji Neopan 400	EI 400/27	10	14	20	7.30	9.30	15	4.30	6.45	9
	EI 800/30	—	—	—	8.45	—	—	5.45	—	—
	EI 1600/33	—	—	—	13.30	—	—	8.30	—	—
	EI 3200/36	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Fuji Neopan 1600	EI 400/27	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	EI 800/30	—	—	—	4.3	—	—	—	—	—
	EI 1600/33	—	—	—	6.3	10	15	3.30	—	—
	EI 3200/36	—	—	—	—	—	—	5.45	—	—

他社のフィルムの現像時間は一般的な目安です。
他社製品の仕様は予告なく変更される場合があります、
その結果、ここに示す現像時間の調整が必要な場合
があります。必要に応じて、現像時間を調整して、
納得のいく結果を得るようにしてください。

停止・定着・水洗・リンス

最良の結果を得るには、すべての処理液を同じ温度、または現像液温度の±5°C(9°F)以内に保つことをお勧めします。

停止

小型のリールタンクで現像処理する場合、現像後フィルムは停止処理の代わりに水洗処理をすることができますが、ILFORD ILFOSTOP(色彩指示あり)などの酸性停止液を使用することをお勧めします。処理タンクまたはバットを使用している場合、停止液により直ちに現像が停止し、定着液への余分な現像液の持ち込みを減らすことができます。これにより、定着液の活性を維持し、定着液の寿命を延ばすことができます。

停止液	ILFORD ILFOSTOP
希釈率	1+19
温度	18–24°C (64–75°F)
時間 (秒) 20°C (68°F)	10
処理能力/L (補充なし)	15本 (135–36)

上記の処理時間は最低限必要な時間であり、必要に応じて時間を延長することができます。時間の延長は過度でない限り、仕上りに問題を引き起こすことはありません。

定着

推奨される定着液は、液体タイプのILFORD RAPID FIXER、ILFORD HYPAM FIXERです。

定着液	ILFORD HYPAM FIXER ILFORD RAPID FIXER
希釈率	1+4
温度	18–24°C (64–75°F)
時間 (分) 20°C (68°F)	2–5
処理能力/L (補充なし)	24本 (135–36)

水洗

無硬膜定着液を使用した場合は、処理温度の±5°C (9°F) 以内の温度の流水で5～10分間フィルムを水洗してください。

リールタンクを使用する場合は、以下の洗浄方法でより早く、より少ない水量で長期保存に適したネガを作成できます。

定着後、処理液温度±5°Cの水をリールタンクに入れ、上下に往復5回反転させます。水を排出して再び水を補充し、タンクを10回反転します。もう一度水を捨てて3度目の補充をします。最後に、タンクを20回反転させ、水を切ります。

リンス(最終水洗)

最終水洗には、水滴斑防止剤ILFORD ILFOTOLを水に加えて使用すると、フィルムが迅速かつムラなく乾燥するのに役立ちます。水1リットルあたり5ml(1+200)を使用することから始めますが、使用するILFOTOLの量は、地域の水質と乾燥方法に応じて調整が必要です。水滴斑防止剤が少なすぎたり多すぎたりすると、乾燥にムラが発生することがあります。乾燥する前に、フィルムから余分な水洗水を拭き取ってください。

補充なしで現像液の再利用

ID-11、MICROPHEN、およびPERCEPTOLの現像液原液は、補充なしでリールタンクまたは深タンクで繰り返し使用することができます。

下の表は、PERCEPTOL、ID-11、およびMICROPHENが補充なしで処理できる原液1リットルあたりの135/36 または120ロールフィルムの本数を示しています。

原液	フィルム本数/L
PERCEPTOL	4
ID-11	10
MICROPHEN	10

フィルムが現像処理されると、ハロゲン化物やその他の副生成物が現像液中に放出され、後続のフィルムの現像を抑制する働きをします。

このため、現像時間は、連続して処理するフィルムごとに調整する必要があります。調整をするには、現像液で処理されたフィルムの本数を集計する必要があります。

ID-11、MICROPHENまたはPERCEPTOLの原液1リットルを使用して複数のフィルムをリールタンクで現像する場合、フィルムを現像した後の現像液活性度の損失は、フィルム1本現像するごとに現像時間を10%増やすことで補うことができます。

(下の表を参照)。

この現像時間調整方法は、次のフィルムを処理する前に、使用済みの現像液(1フィルムに対して250~300ml)を保管容器に戻し、未使用の現像液と混合することを前提にしています。

この方法でリールタンクに使用すると、現像液活性度の損失や副生成物の抑制効果による問題のリスクが軽減され、より一貫した処理結果を得ることができます。

ID-11/MICROPHEN

1litre 原液	N	N+ 10%	N+ 20%	N+ 30%	N+ 40%	N+ 90%
本数	1	2	3	4	5	10

N = 標準現像時間

PERCEPTOL

1litre 原液	N	N+ 10%	N+ 20%	N+ 30%	N+ 40%	N+ 90%
本数	1	2	3	4	nr	nr

nr = 処理非推薦

リールタンクまたは深いタンクで大量の現像液を使用する場合、使用現像液の量に比例して処理できるフィルムの数が増えます。

原液5リットルのID-11を使用する場合、フィルム5本を一括処理した後に現像時間を10%増やします。

次の表は、いくつかの一般的なタンクサイズについて、現像時間を10%増加させる前に処理できるフィルムの本数を示しています。

ID-11/MICROPHEN

タンク サイズ litres	N	N+ 10%	N+ 20%	N+ 30%	N+ 40%	N+ 90%
5	1-5	6-10	11-15	16-20	21-25	46-50
13.5	1-13	14-27	28-40	41-54	55-68	122-135
25	1-25	26-50	51-75	76-100	101-125	230-250

N = 標準現像時間

PERCEPTOL

タンク サイズ litres	N	N+ 10%	N+ 20%	N+ 30%	N+ 40%	N+ 90%
5	1-5	6-10	11-15	16-20	nr	nr
13.5	1-13	14-27	28-40	41-54	nr	nr
25	1-25	26-50	51-75	76-100	nr	nr

N = 標準現像時間

nr = 処理非推薦

現像液の再利用は、より経済的ですが、特に少量を使用する場合にはデメリットもあります。毎回新しい現像液を使用するよりも、現像液を再利用することでの不均一な仕上がりを避けることはできません。時間補正は、フィルムとネガの種類、現像液活性度の損失やその経過時間など、さまざまな要因をカバーするための目安にすぎません。

例えば明るい日光の下で海岸でのシーンなどを撮影した場合、現像後のネガはかなり黒化しており、より多くの現像剤が使用され、現像液活性度の損失が大きくなっています。

現像液を再利用すると、全体的に画質はわずかに低下し、物理的な損傷のリスクが高まります。現像液は再利用や保管により酸化がすすみ、汚染のリスクが高まり、沈殿物が形成されます。また以前に処理されたフィルムの乳剤から小さな粒子が現像液中に浮遊している可能性があります。

さらに、バッチ処理されたフィルムの数を間違えるリスクもあります。

原液または1+1/1+3で希釈した現像剤を使用した「ワンショット(使いきり)」処理は、これらのデメリットを排除または大幅に軽減することができ、画質、信頼性、および一貫性が経済性よりも重視される場合は、ワンショット処理をお勧めします。

1+1および1+3で希釈した現像液を再利用することはお勧めしません。毎回常に新しい現像液を使用してください。

再利用した現像液で増感現像処理することはお勧めしません。

処理液の寿命

PERCEPTOL、ID-11 および MICROPHENの原液は、最大で次の期間使用することができます。

密閉容器に全量入っている場合で 6ヶ月
密閉容器に半分の量が入っている場合で1ヶ月
浮き蓋付きの深タンクで4ヶ月
浮き蓋なしの深タンクで1ヶ月

PERCEPTOL、ID-11およびMICROPHENを1+1
または1+3で希釈したものは24時間以内に使用してください。

保存

写真処理薬品は常に元のパッケージで保管し、子供やペットの手の届かない場所に保管してください。

PERCEPTOL、ID-11、およびMICROPHENの未開封の粉剤は、4～20°C (44～68°F) の涼しく乾燥した状態であれば、無期限に保存できます。
開封したら、すぐに原液を作成してください。

製品ラインアップ

PERCEPTOL 1リットル用
ID-11 1リットル用、5リットル用
MICROPHEN 1リットル用

ILFORD製品の使用に関する説明とガイダンスを提供する、さまざまなファクトシートが用意されています。このファクト シートの一部の製品は、日本で入手できない製品が含まれています。

ILFORDJAPAN CO., LTD.

19-1, Narihira 2-Chome, Sumida-ku, Tokyo 130-0002, JAPAN
www.ilford.co.jp